

公益社団法人 日本船舶海洋工学会

令和2年度（第125期）事業報告

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

日本船舶海洋工学会は、船舶および海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するため、会員を含む広く一般国民を対象とした公益目的事業として、調査研究事業ならびに啓発広報事業を行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため、春季講演会、World NAOE Forumなどが開催中止の影響を受けたが、秋季講演会、研究会シンポジウムはオンラインで開催し、和文・英文論文集は予定通り発行した。以下に活動報告を事業区分ごとに示す。

I 調査研究事業

【1】学術講演会

(1) 春季講演会

令和2年春季講演会は、5月25日、26日に、海上技術安全研究所（三鷹市）で開催すべく準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあるため、講演会とそれに伴う各種企画の開催を中止した。ただし、講演論文の投稿を受け講演可としていた講演論文については、著者が掲載を希望しなかった一部の講演論文を除いて、講演会論文集第30号として刊行した。講演論文の収録件数は一般講演87件、OS8テーマ49件、合計136件であった。また、講演会場における討論に代えて書面討論を実施し、質疑の結果を令和2年秋季講演会の講演会論文集に収録した。

(2) 秋季講演会

令和2年秋季講演会は、熊本城ホール（熊本市）での開催を当初予定していたが、新型コロナウイルス感染症に関する情勢を鑑み、11月16日（月）、17日（火）の両日にわたり、Zoomウェビナーを使ったオンライン講演会（講演は動画配信）として開催した。参加者は181名であり、一般講演62件、OS2テーマ11件、合計73件の講演があった。ポスターセッション（オンライン）には9件の応募があり、厳正な審査を経て若手優秀ポスター賞として最優秀賞1件、優秀賞2件を選出した。オンライン講演会参加者を対象として実施したアンケートでは、予定通りのスケジュール進行や会場への移動が不要となったことによる時間・経費の節約に関して好意的な意見があった一方で、討論や会員同士の交流に難があったとの意見も多数寄せられた。

(3) 講演会企画委員会

委員数：古川芳孝委員長ほか9名

各支部講演会実行委員会および電子投稿WGとともに、春季・秋季講演会の企画・運営を行った。新型コロナウイルス感染症の情勢を考慮した春季講演会開催の可否、春季講演会の開催中止決定後の書面討論の実施方法等について議論を行った。

【2】論文集発行

(1) 論文審査委員会

委員数：岡田哲男委員長ほか21名

主として国内からの投稿論文に対して論文審査を行い、有益な論文を集めて日本船舶海洋工学会論文集第31号、第32号を発行した。また令和3年3月15日開催の論文審査委員会において日本船舶海洋工学会賞（論文賞）4件および奨励賞4件を選考した。ほか、国際的な引用インデックスSCOPUSへの登録申請、第9部門「歴史（技術・文化）」（暫定）の新設などを行った。

(2) 日本船舶海洋工学会論文集刊行

表1-1のとおり日本船舶海洋工学会論文集第31号を令和2年6月に、第32号を令和2年12月に刊行した。

表1-1 日本船舶海洋工学会論文集刊行

	論文数	頁数	発行部数
論文集第31号 (令和2年6月)	20	238	900
論文集第32号 (令和2年12月)	23	279	900
計	43	517	1,800

【3】英文論文集 (Journal of Marine Science and Technology) の発行

(1) JMST 編集委員会

委員数：高木健委員長ほか49名

世界各国からの学術投稿論文に対して論文審査を行ない、有益な論文を87編集めてJMST Vol.25 No.2～Vol.26 No.1を編集した。

(2) JMST 刊行

JMST Vol.25 No.2～Vol.26 No.1の4冊を、表1-2のとおり刊行した。

表1-2 英文論文集 (JMST) 刊行

	論文数	頁数	発行部数
Vol.25 No.2 (令和2年6月)	21	331	450
Vol.25 No.3 (令和2年9月)	23	331	450
Vol.25 No.4 (令和2年12月)	21	336	450
Vol.26 No.1 (令和3年3月)	22	321	450
計	87	1319	1,800

【4】調査・研究活動

1. 研究企画委員会

委員数：菅勇人委員長ほか12名

学会の研究活動全般を統括し、研究活性化戦略を企画・推進することを目的として、研究企画委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第45回	02.09.01	オンライン	11名	7件
第46回	03.02.22	オンライン	10名	11件

実施事項：

- ・分野研究活動の報告及び検討
- ・新規研究委員会の設置に関する審議（7件）
- ・研究委員会の終了評価に関する審議（3件）

2. 分野研究企画部会

性能・運動分野

委員数：安東潤委員長ほか6名

船舶及び海洋構造物等の性能・運動分野についての研究動向や

産業界のニーズを踏まえ、わが国として取り組むべき重点課題の設定と研究活動方針の策定、実施体制の検討を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	02.05.11	オンライン開催	7名
第2回	02.06.23	メール審議	7名
第3回	03.03.10	オンライン開催	7名

実施事項：

・第16～18回の推進・運動性能研究会の企画、実施
構造・強度、材料・溶接分野

委員数：後藤浩二委員長ほか9名

構造強度・材料溶接の研究や共通構造規則に関し、船体構造研究会および材料・溶接研究会の活動状況の情報交換などを実施した。

回	期日	場所	出席者
第1回	02.05.15	書面回議	10名
第2回	02.10.28	ウェブ会議	10名

実施事項

- ・COVID-19の影響に伴う今年度活動計画の修正
- ・次年度からの部会委員体制について
- ・COVID-19の影響に伴う次年度以降の活動計画（夏の学校、研究交流会）に関する検討
- ・他分野との交流に関する検討
- ・「造船設計者のための有限要素法」の増補について

工作分野

委員数：青山和浩委員長ほか11名

船殻工作分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を目的とし、建造革新研究会の活動進捗確認及び活動方針検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	02.08.03	オンライン会議	11名	2件
第2回	02.11.27	オンライン会議	9名	6件
第3回	03.02.05	オンライン会議	10名	5件

設計・艤装分野

委員数：篠田岳思委員長ほか6名

造船設計部会、船体艤装工作部会、機関艤装部会、電気艤装部会の4部会を連携させ、隔年で横断的な共同シンポジウムを開催する。

海洋工学・海洋環境分野

委員数：井上俊司部会長ほか11名

海洋工学および海洋環境分野の研究動向を調査・整理するとともに、今後の研究を企画・推進・支援するため、海洋工学・海洋環境分野研究企画部会を下記の通り開催した。

回	期日	場所	出席者数
第45回	02.08.28	オンライン	5名
第46回	03.03.29	オンライン	8名

実施事項：

- ・海洋工学・海洋環境合同研究会の企画と開催
- ・関連研究委員会（S-16, S-22, S-23, S-24）の活動支援、企画立案
- ・研究会の活動計画等の審議
- ・第28回・第29回海洋工学シンポジウムへの対応

情報技術分野

委員数：木村元委員長ほか9名

造船および海事産業の情報技術に関する研究・開発動向を調査するとともに、今後の研究・開発の推進を目的として以下の通り実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	02.07.21	オンライン	14名	3件
第2回	02.09.18	オンライン	12名	3件
第3回	03.01.19	オンライン	10名	3件

実施事項：

- ・研究企画委員会の審議事項の報告と連携
- ・情報技術研究会の運営方法に関する審議
- ・プロジェクト研究会（P-60）活動進捗
- ・学会誌連載記事に関する審議

3. プロジェクト研究委員会

今期は4件のプロジェクト研究委員会を実施した。このうち今期新たに活動を開始した研究委員会は2件（P-59, P-60）、活動を終了した研究委員会は1件（P-57）である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

P-57 「LNG 燃料船の艤装設計に関する課題と調査」研究委員会

委員数：田中進委員長ほか22名

LNG 燃料タンクの配置や設計、LNG 燃料タンクへの配管設計等の具体的な設計手順を持ち合わせている造船所は殆ど無いため、本委員会で種々調査を行い、LNG 燃料船を設計する為の前段階として、技術的な注意点や問題点を明らかにする。

回	期日	場所	出席者数
第5回	02.10.09	大島エンジニアリング	4名
第6回	03.02.18	大島エンジニアリング	3名

実施事項：

- ・第132回造船設計部会でのコメント対応協議
- ・第133回造船設計部会用の資料協議

P-58 「原油タンカーにおけるOCIMF及びメジャーオイル要求に関する艤装設計指針の改訂」研究委員会

委員数：田中進委員長ほか22名

平成14年に制定された標記指針を、最新のOCIMF及びメジャーオイルの要求を織り込み改訂することを目的に活動を行った。

実施事項：

- ・OCIMFの最新recommendationに関して造船各社にアンケート調査を実施
- ・メジャーオイルの最新の要求項目に関して設計にかかわる項目を抜粋し、造船各社にアンケート調査を実施。

P-59 「破壊駆動力評価における溶接残留応力影響の考慮法に関するFS委員会」

委員数：川畑友弥委員長ほか28名

WES2805などの欠陥評価規格における溶接残留応力の取り扱いに関する精度を向上（特に過剰な保守性を排除）するために令和2年度より活動を開始。本年度は各国規格の取り扱いをサーベイし、WES2805の取り扱いの相対的位置について確認した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	02.07.20	オンライン	28名	5件
第2回	02.11.25	オンライン	28名	3件
第3回	03.02.09	オンライン	25名	6件

P-60 「造船業務のAI化の検討」研究委員会

委員数：木村元委員長ほか49名

造船所のAI利用を促進することを目的として、AI化を期待する造船業務、その実現方法や事業規模のイメージを纏めることに加え、造船業務における研究委員のAIリテラシー向上も目的に活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	02.09.18	オンライン	33名	2件
第2回	03.01.19	オンライン	31名	2件

実施事項：

- ・外部講師によるゲスト講演（3回）
- ・研究対象とするAI適用業務の選定についてアンケートと議論

4. ストラテジー研究委員会

戦略的課題について研究するストラテジー研究委員会だが、

今期は7件実施した。そのうち新たに活動を開始した研究委員会は4件（S-21, 22, 23, 24）、活動を終了した研究委員会は2件（S-16, S-18）である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

S-16 次世代海洋食料生産システム研究委員会

委員数：北澤大輔委員長ほか9名

令和元年度までの調査結果に基づき、報告書の取り纏めを行った。令和2年7月に水産庁より発表された「養殖業成長産業化総合戦略」も参照し、国内外の養殖戦略を取りまとめ、各国の今後の定量的な生産目標や、目標を実現するために必要な実施項目を取り纏めた。また、船舶海洋工学分野が貢献できる技術課題として、沖合養殖に用いるプラットフォーム技術や、配合飼料を確保するために重要になると予想される深層水利用技術を取り上げ、これらの過去から現在までの研究開発をレビューした。最後に、報告書を取り纏めて確認を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第5回	03.03.15	オンライン	9名	5件

実施事項：

- ・養殖業成長産業化総合戦略のレビュー
- ・近年の沖合養殖、陸上養殖に関する意見交換
- ・シンポジウム情報の交換
- ・報告書の取り纏めと確認

S-18 AIS等の船舶動静ビッグデータの物流・海運・造船分野における活用に関する検討委員会

委員数：柴崎隆一委員長ほか25名

4回の委員会（うち2回は幹事会）を開催した。令和2年3月に予定していたもののコロナ禍の影響で延期した研究会、および同様の理由により中止となった春季講演会のOSの代替としてオンラインセッションを委員会において開催した。また幹事会では、報告書の作成も念頭に、特に研究レビューと今後の研究の方向性に関する議論を行い、投稿論文を作成した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	02.05.08	オンライン	30名	3件
第2回	02.06.19	オンライン	95名	7件
第3回	02.12.10	ハイブリッド	8名	
第4回	03.02.26	オンライン	10名	

実施事項：

- ・船舶動静ビッグデータの活用に関する研究成果の報告
- ・「COVID-19 関連を含む AIS 等の船舶動静ビッグデータの物流・海運・造船分野における活用に関するオンラインセッション」の開催（02.06.19）
- ・AIS データの利用研究のレビュー
- ・今後の AIS データの利用研究に関するディスカッション、及び報告書・論文の作成

S-20 造船業におけるデジタルトランスフォーメーションの検討委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか13名

日本の造船業のデジタルトランスフォーメーション(DX)に向けて検討するためのシナリオの作成を目的としている。DXは設計思想を基にした3D CAD データを利活用して工程をデジタル化して見える化を行い、どのように工程管理を実施するかである。造船業は他の大量生産型の製造業とは異なり個別生産であることから、どの工程のデジタル化が実施可能であり、費用対効果がどの程度なのかは明らかではない。本年度は新型コロナウイルスのため休会とし、各自での調査活動とした。

S-21 ゼロエミッション船実現に向けた船舶流体力学を主体とした技術検討委員会

委員数：川北千春委員長ほか23名

海運からの GHG 排出削減は喫緊の課題としてその重要度

はますます高まっている。GHG 排出量ゼロの船舶を実現させるには、多くの技術課題が存在し、その解決に向けて船舶流体力学に携わる者にとって、やるべきことは多くあり、その指針を有識者で議論した。その結果を共有するために、02年12月にウェブ形式で「GHG 排出量ゼロに向けた船舶流体力学の現状と展望」と題したシンポジウムを開催し、学生や若手研究者にとって教科書となるテキストを作成した。

S-22 浮体式洋上風力発電の商用利用に向けた研究委員会

委員数：鈴木英之委員長ほか7名

浮体式洋上風力発電の商用利用に向けコストダウンの方策等について議論を行っている。既に国内で行なわれた浮体式洋上風車の実証研究における設置方法や建造方法等についてのレビューを行った。また、浮体式風車のコスト削減に寄与する要素についての議論を行った。浮体式洋上風車の実証試験の維持管理等についても議論を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
・第1回	02.11.23	オンライン	6名	
・第2回	03.01.22	オンライン	7名	2件
・第3回	03.03.25	オンライン	8名	2件

実施事項：

- ・国内の浮体式風車プロジェクトの実証試験のレビュー
- ・浮体寸法の変化が浮体性能や建造コストに及ぼす影響についての検討
- ・浮体式風車の維持管理の実際およびコストダウンの可能性検討

S-23 海洋プラスチック汚染研究委員会

委員数：西佳樹委員長ほか12名

国内外における海洋プラスチック、特に海洋マイクロプラスチック問題の解決に対し、船舶海洋工学分野から貢献するための具体的な方策を提案することを目的として、主に委員間での意見・情報の交換を行った。既に海洋中に出されたプラスチックがどのような影響をもたらし得るか、どのようにしてそれらを回収し影響の低減を図るかといった点を討論した。また、船舶を用いた浮遊プラスチック回収を事業として進めている民間企業の技術担当者による講演を依頼し、情報の共有を図った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	02.10.08	オンライン	11名
第2回	03.03.01	オンライン	12名（ゲスト3名）

実施事項：

- ・海洋プラスチック問題に関する政策、学術動向、市民活動の調査
- ・船舶海洋工学分野から貢献できる技術課題の抽出
- ・民間企業による海洋プラスチック回収事業に関する情報共有

S-24 海洋構造物のデジタルツイン技術に関するストラテジー委員会

委員数：居駒知樹委員長ほか9名

様々な製品に関して観測とシミュレーションを融合した Digital Twin (DT) 技術が謳われているが、同技術は今後、価値を生み出す核となる可能性がある。本委員会は、海洋構造物に関する DT 技術の調査を行うものである。初年度である本年度はまず参加委員が DT への理解を深めるべく、DT 全般に渡る調査報告を行い、海洋構造物への適用性についてプレーストリーミングを行った。そのために計3回の委員会を開催した。

5. 研究会

船舶海洋工学に係わる情報交換および技術交流を支援・促進するため各種研究会を設置し、研究発表およびシンポジウム開催等の活動を実施した。現在設置の研究会は次のとおりである：推進・運動性能研究会、船体構造研究会、材料・溶接研究会、建造革新研究会、造船設計・生産技術研究会、海洋工学研

研究会、海洋環境研究会、情報技術研究会。

推進・運動性能研究会

会員：安東潤会長ほか282名

船舶・海洋構造物の推進・運動性能に関して広く情報交換を行い、この分野の研究交流を促進して、関連分野の発展に寄与することを目的として、以下の研究会を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第16回	02.06.26	オンライン開催	69名	12件
第17回	02.10.27	オンライン開催	53名	6件
第18回	03.03.18	オンライン開催	56名	5件

実施事項：

- ・JTTC講演
- ・一般研究発表と討議
- ・推進・運動性能研究会シンポジウムの開催（別掲）

船体構造研究会

船体構造分野の研究企画に関する意見交換を行い、構造系3研究会の情報共有により、学会内活動の有効化・活性化を図った。なお、本研究会は関係する三支部の構造研究会より構成されるため、各研究会のメール審議を基本とした。

回	期日	場所	出席者数
第1回	02.08.05-18	メール審議	4名
第2回	03.03.04-08	メール審議	4名

三支部の構造研究会活動は支部活動に記す。

材料・溶接研究会

会員：川畑友弥会長ほか28名

船体構造材料・溶接・破壊力学分野について、最新研究の情報交換及び討議を行った。実施詳細を以下に記す。感染症拡大防止の観点で全てをオンラインで開催した。第45回、46回ではP-59委員会と同時開催した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第45回	02.07.20	オンライン	28名	2件
第46回	02.11.25	オンライン	28名	2件
第47回	03.03.16	オンライン	25名	2件

建造革新研究会

会員：青山和浩会長ほか38名

船舶建造の船殻分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を行うことを目的とし、3つのワーキンググループにより下記の活動を行った。なお、総会はコロナ禍のため中止した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
---	----	----	------	------

WG1：

第1回	02.09.30	オンライン会議	15名	6件
第2回	02.12.15	オンライン会議	12名	5件
第3回	03.02.08	オンライン会議	11名	5件

WG2：

第1回	02.09.14	オンライン会議	12名	6件
第2回	02.12.17-18	オンライン会議	10名	6件
第3回	03.03.22	オンライン会議	6名	3件

WG3：

第1回	02.10.02	オンライン会議	12名	5件
第2回	02.11.19	オンライン会議	14名	3件

実施事項：

- ・効率的な精度モニタリング・評価技術に関する研究（WG1）
- ・品質管理に関する研究（WG2）
- ・省人化に関する研究（WG3）

造船設計・生産技術研究会

会員：篠田岳思会長ほか4部会合わせて89名

船舶・海洋構造物の船体・機関・電装における技術的諸問題を考究し、その成果を設計や生産に関する指針・基準として纏め、設計・生産技術の高度化を図ることを目的として活動を展

開した。

造船設計部会：田中進部会長

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第132回	02.09.17	ウェブ会議	22名	5件
第133回	03.03.01	ウェブ会議	21名	6件

実施事項

- ・P-57,58の審議
- ・新規プロジェクトの選定
- ・幹事会報告、会計報告、情報交換
- ・第15回シンポジウムテーマ選定

船体機装工作部会：篠田岳思部会長

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第44回	02.09.24	ウェブ会議	12名	4件
第45回	03.03.01	ウェブ会議	16名	4件

実施事項

- ・改善事例、トラブル事例、災害事例、その他情報交換

機関機装部会：井上順広部会長

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第22回	02.11.13	ウェブ会議	17名	10件

実施事項

- ・機関機装に関する規則トピックス
- ・各社からの機関機装アンケート結果の審議
- ・次年度の機関機装アンケート原案の審議

電気機装部会：金子仁部会長

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第20回	03.02.26	ウェブ会議	13名	8件

実施事項

- ・電気機装、新技術、品質管理、規則・基準についてのアンケート調査報告と審議
- ・電気・機装関連規則の最新動向
- ・船体汚損防止に関する動向

海洋工学研究会

会員：井上俊司会長ほか105名

海上および海中の海洋構造物、海洋エネルギー利用などの海洋工学に関する研究を促進・支援するために、研究会の開催、若手研究者の育成を目的とした海外派遣などを以下のとおり実施した。（海洋環境研究会と合同開催）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
幹事会	02.08.28	オンライン	8名	
第33回	02.12.21	オンライン	31名	7件
第34回	03.03.29	オンライン	35名	3件

実施事項：

- ・研究会（講演会）を開催し、研究情報交換を行った。

海洋環境研究会

会員：村井基彦会長ほか79名

海洋環境の調査・保全・修復、海洋環境変動の評価・予測等に関する研究を促進・支援するため、海洋環境研究会を下記の通り開催した。（海洋工学研究会と合同開催）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
幹事会	02.08.28	オンライン	8名	
第33回	02.12.21	オンライン	31名	7件
第34回	03.03.29	オンライン	35名	3件

実施事項：

- ・研究会（講演会）を開催し、情報交換を行った。
- ・第28回海洋工学シンポジウムを02年9月に主催した。

情報技術研究会

会員：青山和浩会長ほか49名

造船および海事産業の情報技術に関する調査研究と、ニーズや技術課題の発掘を目的に、以下の通り活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第45回	02.09.18	オンライン	33名	4件
第46回	03.01.19	オンライン	31名	3件

実施事項：

- ・機関紙「すうちせいぎょ」の発行
- ・情報技術（業界，他業界）に関する話題の提供と討議

【5】国際学術協力等

1. 日韓ジョイントセッション

大韓造船学会(SNAK)と共同で毎年交互に開催している日韓ジョイントセッションは，秋季講演会に合わせて開催の計画であったが，コロナ禍のため中止した。

2. Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES)

令和2年9月27-30日にロシア・サンクトペテルブルグで開催予定であった第9回PAAMES/AMEC会議は，世界的なコロナ禍のため令和3年以降に延期された。

3. RINA IMO Group 対応

RINA から Global Naval Architecture Group への意見照会を受け，IMO への提出文書案について日本船舶海洋工学会として提言を行った。

4. 国際対応委員会

国際的な諸活動に対応するため下記の委員会を開催した。

(1) JTTC 委員会

委員数：宇都正太郎委員長ほか36名

ITTC（国際試験水壇会議）への対応および船舶性能に関わる調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第43回	02.06.25	ウェブ会議	25名	16件
第44回	02.10.28	ウェブ会議	22名	7件
第45回	02.03.04	ウェブ会議	23名	10件

実施事項：

- ・第29期ITTC各委員会の進捗状況等に関する情報交換

(2) JSSC 委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか20名

ISSC（国際船舶および海洋構造物会議）への対応および船舶・海洋構造物の構造に関する調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第27回	02.07.06	オンライン会議	17名	20件

実施事項：

- ・ISSC2022理事会・委員会への参加と情報交換
- ・ISSC2022委員会中間会合の支援

【6】シンポジウム等の開催

1. 第28回海洋工学シンポジウム

日本海洋工学会と共催で第28回となる海洋工学シンポジウムを「ビッグデータと人工知能の波 - 海洋工学開化」のテーマで開催した。当初令和2年3月に予定していたが，コロナ禍のため半年延期しオンライン形式で開催した。2件の基調講演，8件のOSを含め，計81件の講演が行われた。

期日：令和2年9月29，30日

場所：オンライン開催

参加人数：159名

2. World NAOE Forum 2020

世界船舶海洋工学フォーラムは関西支部を中心に，海上物流

システムの新技術による再構築をテーマに，12月の開催を目指し準備していたが，新型コロナウイルスの影響により中止とした。検討が進んでいたテーマについては，特別検討委員会を組織し検討を継続する。

3. 推進・運動性能研究会シンポジウム

2050年までに海運からのGHG排出量50%以上を削減するとのIMOの目標達成には，ゼロエミッション船の実現が喫緊に求められるが，実現には多くの技術課題が存在し，船舶流体力学に携わる研究者や技術者にとっても大きなチャレンジとなる。そこで推進・運動性能研究会としては5年ぶりとなるシンポジウムを，「GHG排出量ゼロに向けた船舶流体力学の現状と展望」と題して2日間にわたり開催した。また学生や若手研究者が教科書的に活用できる11章からなるシンポジウム・テキストをまとめた。

期日：令和2年12月14，15日

場所：オンライン開催

参加人数：190名

【7】研究者・技術者の海外共同研究促進事業

研究活動のグローバルな活性化と国際的な人材育成の促進を目的に，令和2年度は海外と日本の若手研究者(30歳代)間の，以下の共同研究5件を実施した。

- 1) 潮流・海流発電タービンプレードと魚類衝突リスクに関する水槽実験と現地計測の比較（東京大学—英国）
- 2) 確率論的平均化手法とTDS-based法を融合した不規則船体動揺の推定手法の確立（大阪大学—ドイツ）
- 3) High-Fidelity Modelling of Floating Offshore Wind Turbines（東京大学—ポルトガル）
- 4) 多方向不規則波浪場で出現する異常波浪(Freak Wave)の発生・達消滅機構解明とその波浪衝撃荷重の時空間分布推定法の開発（広島大学—英国）

1)および2)は2年計画の研究であり，令和3年度も継続する。3)は令和2年度の単年研究である。令和2年度は上記のほか，前年度から継続の1件も遂行中であり，合計で4件の研究テーマが実施された。また令和3年度の海外共同研究には，新たに3件の応募があり，審査を経て1件が採択された。

【8】後援および協賛

関連学協会等の講演会・シンポジウム等に40件の協賛と5件の後援を行った。また日本学術会議関連のシンポジウムを1件共催した。

【9】支部活動

1. 東部支部

会員および広く公益に資する目的で，海事関連の最新テーマに関するワークショップを2回開催した。また船の構造に係わる技術交流，研究活動のため構造研究会を実施した。

(1) 第1回東部支部ワークショップ

「AI/IoTを活用した設計・生産技術」

期日：令和2年9月9日(水)

場所：ウェブ会議システムにより開催

参加人数：100名（内，非会員16名）

講演数：6件

(2) 第2回東部支部ワークショップ

「船舶のゼロエミッション実現に向けて」

期日：令和3年2月24日(水)

場所：ウェブ会議システムにより開催

参加人数：169名（内，非会員52名）

講演数：5件

(3) 東部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者数	講演数
第 54 回	03.01.13	ウェブ会議	32 名	4 件

2. 関西支部

(1) 特別講演会

海上輸送時における地球温暖化ガスの排出量削減のため、実海域性能およびウェザールーティングの高度化に必要な実船モニタリングが注目されている。これらを支える海上での長距離通信に関する要素技術を紹介するために、船用機器メーカーから講師（古野電気 中川裕康氏）を招き講演会を企画した。

期日：令和 3 年 1 月 22 日

場所：ウェブ開催

出席者：71 名

題目：海上ブロードバンド通信に関する技術開発の状況について

(2) シンポジウム

・第 1 回シンポジウム(学生研究発表会)

海事関係学生に研究成果の発表と討論の場を提供し、今後の研究の発展と研究意欲の向上をはかるため、学生研究発表会をオンラインで実施した。この発表会では、さらなる学生の研究意欲向上につなげるため、優秀な発表を表彰した。

期日：令和 2 年 11 月 28 日

場所：ウェブ開催 出席者：43 名

ポスター：11 件 支部長賞(奨励)授与 2 件

・第 2 回シンポジウム

新型コロナウイルスの影響により開催を中止

(3) KFR (関西船舶海洋流体力学研究会)

船舶および海洋に関連する流体力学の幅広い学術的知識を深めるとともに、それらの科学技術がどのように産業に活用されているかについての見識を深めることを目的として、例会を開催した。

第 348 回例会

期日：令和 2 年 10 月 29 日

場所：ウェブ開催 出席者：94 名

題目：耐航性能計算を見つめなおす

第 349 回例会

期日：令和 3 年 1 月 27 日

場所：ウェブ開催 出席者：90 名

題目：カルマンフィルタの基礎・応用技術講座

(4) KSSG (関西船体構造研究会)

関西支部に所属する研究者・技術者間で、船舶および海洋構

造物の構造に関わる、荷重、強度、設計、建造、解析技術などについての情報交換、話題提供、調査・研究成果の発表/討論のための研究会を実施した。特に若手技術者育成に重きを置いた内容とした。

第 124 回

期日：令和 2 年 6 月 10 日

場所：ウェブ開催 出席者：25 名

第 125 回

期日：令和 3 年 3 月 3 日

場所：ウェブ開催 出席者：24 名

3. 西部支部

(1) 西部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者
第 46 回	02.05.19	新型コロナウイルスのため中止	
第 47 回	02.09.16	オンライン開催	39 名
第 48 回	03.01.19	オンライン開催	33 名

(2) 西部支部性能研究会

Workshop on Environmental Technologies in Naval Architecture and Ocean Engineering, 2020

期日：令和 2 年 11 月 12-13 日 (19-20 日)

場所：広島大学中央図書館ライブラリーホール

上記開催予定で準備を進めたが、新型コロナウイルスの影響により海外の講師陣の渡航が不可となり中止とした。

(3) 西部支部シンポジウム

「近未来の造船技術とその周辺」

期日：令和 3 年 1 月 20 日

場所：ウェブ会議

講演：4 件、参加人数：90 名

造船業界を取り巻く環境が大きく変化を見せ、排ガスやバラスト水による環境汚染など新たな規制への対応が直近の課題となる一方、AI など様々な最新技術が注目を集めている。そこで本シンポジウムでは、造船業界の現状の課題と今後予想される変革について、設計から建造に至る分野の新技术を幅広く取り扱い、最新情報に関する講演と討論を行った。

(4) 西部支部特別講演会

令和 3 年 1 月に開催予定であったが新型コロナウイルスの影響により中止した。

II 啓発・広報事業

【1】能力開発センター

1. 能力開発センター運営委員会

委員数：宇都正太郎委員長ほか5名

能力開発センターを構成する技術者資格支援委員会、CPD委員会、大学等教育支援委員会の活動を推進した。

2. 技術者資格支援委員会

委員数：上野道雄委員長ほか1名

技術士補(技術士第1次試験)の資格取得のための講習会を下記日程で計画し、技術士一次試験の専門科目(機械とシステム、浮体の力学、計測・制御、材料・構造)について4名の講師による講習を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により直前

で中止となった。

期日：令和 2 年 7 月 30, 31 日

場所：ビジョンセンター浜松町会議室

申込人数：9 名

3. CPD委員会

委員数：新宅英司委員長ほか2名

継続的能力開発(CPD)ポイントの発行と蓄積システムの運用を行った。

4. 大学等教育支援委員会

委員数：馬場信弘委員長ほか4名

日本技術者教育認定機構（JABEE）の活動に協力し、船舶海洋系大学の教育プログラムの、JABEE 認定に向けた支援を行った。

【2】造船技術者社会人教育

日本造船工業会、日本中小型造船工業会との共催である造船技術者社会人教育（第20回）は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

【3】海洋教育推進活動

1. 海洋教育推進委員会

委員数：小林正典委員長ほか50名

(1) 委員会の開催

運営委員会、WG 戦略会議を下記のとおり開催し、以下について審議した。

- ・海洋教育推進委員会の運営方針
- ・海洋教育フォーラム、海洋教育セミナーの計画・実施

期日	委員会名	出席者数
02.04.20	第44回運営委員会	13
02.07.28	第45回運営委員会	8
02.07.28	第33回WG戦略会議	13
02.10.29	第46回運営委員会	6
02.10.29	第34回WG戦略会議	18
02.12.21	第47回運営委員会	6
02.12.21	第35回WG戦略会議	15
03.02.03	第48回運営委員会	6
03.02.03	第36回WG戦略会議	15

※ 第44回運営会議はメール審議、それ以外の会議は全てオンラインでの開催

(2) 海洋教育フォーラムと海洋教育セミナーの開催

海洋教育フォーラムは海事関係の人材のすそ野を広げるために、「海洋と我々の係わり」を中高生及び若年層に理解してもらうことを目的として、全国で展開している。教員及び一般市民を介して中高生及び若年層に伝えてもらうことを期待して、広く一般の人にも参加願っている。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により前年度の半数程度となったが、総計5回の海洋教育フォーラムを全国各地で開催した。また、令和元年度の海洋教育推進委員会の活動報告会として、海洋教育セミナーを1回開催した。

- ・第15回東部支部海洋教育セミナー
期日：令和2年7月28日
場所：オンライン
プログラム：講演17件 参加者数：24名
- ・第66回海洋教育フォーラム（広島）
「広島県東部から見た造船業と瀬戸内海」
期日：令和2年12月6日
場所：オンライン
プログラム：講演4件 参加者数：32名
- ・第67回海洋教育フォーラム（東京・千葉）
「海のいろいろー水辺・水上空間利用の過去・現在・未来」
期日：令和3年3月13日
場所：オンライン
プログラム：講演3件 参加者数：69名
- ・第68回海洋教育フォーラム（長崎）
「海洋工学と海洋環境の未来を育む長崎」
期日：令和2年12月12～13日
場所：オンライン
プログラム：講演8件 参加者数：115名
- ・第69回海洋教育フォーラム（岩手）

「海のこともっと知ろう!～海洋が拓く北三陸の未来～」

期日：令和2年12月24日

場所：久慈市文化会館

プログラム：講演4件 参加者数：300名

・第70回海洋教育フォーラム（仙台）

「私たちの海～海に学び・海から学ぶ」

期日：令和3年1月30日

場所：オンライン

プログラム：講演18件 参加者数：140名

- ・群馬、横須賀、静岡、大阪、博多の海洋教育フォーラムは新型コロナウイルスの影響により中止または延期となった。

(3) 海洋教育に関する広報活動

- ・海洋教育に関するイベントの紹介記事を学会誌に掲載した。
- ・海洋教育イベント情報をホームページに掲載した。
- ・令和3年2月11日に、フクラシア東京およびオンラインのハイブリッドにて、東京大学海洋教育センターと日本財団の共催で開催された海洋教育サミットに出席し、委員会活動を紹介した。

(4) 海洋教育に関する企画

- ・令和2年8月29日に、寺田倉庫(株)で「こども大学」としてオンラインの船の工作教室を実施し、15名の参加があった。船の科学館、バンドー神戸青少年科学館、東京大学柏キャンパスの一般公開の工作教室は中止となった（WG5）。
- ・小学生および保護者を対象に、夏に、海で安全に水辺体験を行うために、「今年の夏は海へ行こう！大作戦！」というテーマで、ライフジャケットや背浮きで水に浮くスキルに関する研修会をオンライン講義（令和3年3月20日）とプール実技（令和3年3月28日）で開催した（WG8）。
- ・海洋教育に係わる教材のライブラリー化等を行う教材作成（WG4）、造船関係施設の見学を行う造船所見学（WG6）、高校教員との交流による学校との教育連携（WG7）は新型コロナウイルスの影響により中止となった。

2. 青少年啓発活動

(1) 夏休みおもしろ船教室2020（長崎総合科学大学）

乗船体験、おもしろ船教室、地域連携活動

期日：令和2年6月15日、8月18日、10月11日、11月20日

場所：長崎港、長崎総合科学大学、橋湾網場漁港周辺、

五島市福江町、井筒造船所

プログラム：クルージング体験、産業革命遺産見学、操船シミュレーター体験、ラジコン潜水艦操縦体験、洋上風力発電現地視察、ROV制作・操作体験、建設台船の見学、溶接管理者講座、造船所見学

参加者数：計112名

(2) その他啓発活動

- ・‘20水中ロボットコンベンション in JAMSTEC(02.12.5-6)
- ・海技大学校で予定されていた施設公開、体験航海等は、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

3. 夏の学校

2泊3日または1泊2日で、性能・運動分野および構造強度・材料溶接分野の専門家に講義を依頼し、若手技術者の専門教育の充実、および交流を促進する「夏の学校」は、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

4. 一般向け講演会の開催

表2-1のとおり造船系8大学にて小学生から高校生を含む一般向けの講演会、講習会、出前講義、地域密着型のイベント等

表2-1 一般向け講演会

大学	開催日/場所	参加者
東京大学	新型コロナウイルスのため中止	
東京海洋大学	新型コロナウイルスのため中止	
横浜国立大学	新型コロナウイルスのため中止	
大阪大学	新型コロナウイルスのため中止	
大阪府立大学	新型コロナウイルスのため中止	
広島大学	新型コロナウイルスのため中止	
九州大学	新型コロナウイルスのため中止	
長崎総合科学大学	R02年9月28日～R03年2月1日 長崎総合科学大学	65

の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、長崎総合科学大学のみ実施した。

5. 海洋へのいざない改訂版の編集・発行

日本船舶海洋工学会創立120周年記念事業で、主に中高校生への海洋・船舶に関する普及・啓発を目的に出版した「海洋へのいざない」の改訂版発行のため、編集グループ会議を4回オンラインで開催し、改訂版を編集、制作した。また、3,000部を印刷し、関係先への配布を開始した。

【4】会誌発行

会員および広く一般に海事関連の最新情報を提供し、また学会活動を広報・周知するため、学会誌「KANRIN」を隔月に発行した。

(1) 学会誌編集委員会

委員数：西村信一委員長ほか58名

・学会誌発行の全体計画および調整のため、下記の編集幹事会を開催した。

回	期日	場所	出席者数
第61回	02.07.07	ウェブ会議	10
第62回	02.10.26	ウェブ会議	10
第63回	02.12.01	ウェブ会議	7
第64回	03.03.03	ウェブ会議	10

・特集等の企画・編集のため、各支部単位の編集委員会を随時開催した。

・各支部編集委員会の分担により、学会誌第90号～95号を編集した。

・編集幹事会および編集委員会において、学会誌の電子化による利便性向上について検討を行い、令和3年1月号から電子版(PDF)をホームページの会員専用ライブラリに掲載することとした。

(2) 学会誌刊行

日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」第90号から95号までの6冊を表2-2のとおり刊行し会員、賛助会員に配布したほか、書店等に販売した。

表2-2 日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」発行

会誌・号・発行月	頁数	発行部数
KANRIN 第90号 (R2年5月)	54	5,100
KANRIN 第91号 (R2年7月)	89	5,100
KANRIN 第92号 (R2年9月)	78	5,100
KANRIN 第93号 (R2年11月)	84	5,100
KANRIN 第94号 (R3年1月)	66	5,100
KANRIN 第95号 (R3年3月)	72	5,100
計	443	30,600

【5】電子情報サービス

会員をはじめとする国民一般への広報・情報発信として、学会ホームページの管理運用を行った。また会員の利便性向上のため

の会員専用ライブラリへのコンテンツ追加、モバイル対応を含むデザイン更新を行うと共に、定期的なメールニュースの発行を行った。

(1) 情報管理委員会

委員数：中野豊久委員長ほか3名

下記のとおり4回の情報管理委員会を開催し、主として学会ホームページの運用に関する審議を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	02.06.10	ウェブ会議	8
第2回	02.09.09	ウェブ会議	7
第3回	02.12.18	ウェブ会議	8
第4回	03.02.10	ウェブ会議	7

(2) 主な実施事項

- ・日本船舶海洋工学会ホームページの企画・管理・運用
- ・メールニュースNo.352～378の発行
- ・会員専用ライブラリのコンテンツの追加・充実

【6】広報活動

各種イベントにおけるパンフレットの配布等、学会活動を広く周知し入会者の増加を図る目的で広報宣伝活動を継続した。

【7】シップ・オブ・ザ・イヤー授賞

毎年日本で建造された船舶・海洋構造物の中から、技術的・芸術的・社会的に優れた作品を選考して表彰するシップ・オブ・ザ・イヤーの第30回目となるシップ・オブ・ザ・イヤー2019を選定した。

令和2年7月27日、応募作品の発表会と選考会がウェブ会議を併用して実施され、選考委員会において表2-3に示す作品が各賞に選定された。令和2年9月25日に開催された海事三学会合同表彰式(海運クラブ)において、受賞作品の表彰を行った。

表2-3 シップ・オブ・ザ・イヤー受賞作品

シップ・オブ・ザ・イヤー2019	E/V e-Oshima
大型客船部門賞	きたかみ
小型客船部門賞	シーバセオ
小型貨物船部門賞	うたしま
漁船・調査船部門賞	やしお
作業船・特殊船部門賞	いしん

【8】ふね遺産の認定事業

第4回ふね遺産公募に応募・推薦のあった16件から、ふね遺産認定実行委員会を選定した候補案を、ふね遺産審査委員会での審査の結果、表2-4に示す第4回認定案件8件を決定した。新型コロナウイルス感染症の影響で、参加を断念する認定者も多かったため、認定式は中止し、令和2年10月9日認定案件の所有者・関係者に認定書および認定プレート(非現存案件については認定書)を送付により授与した。また第5回ふね遺産の公募を実施し、認定候補案件15件から候補を選考した。

表 2-4 第 4 回ふね遺産認定

認定案件	所在地・所有者
第五福龍丸	東京都
MERMAID	San Francisco Maritime National Historical Park
遠賀川五平太舟 (川ひらた)	福岡県芦屋町歴史民俗資料館・折尾高校
日米船鉄交換船「Eastern Soldier」の図面原紙	(株)JMU アムテック
市川造船所造船資料	三重県伊勢市
原子力船「むつ」	日本原子力研究開発機構
さんふらわあ	商船三井フェリー(株)
畿内丸	(株)商船三井

【9】褒賞

日本船舶海洋工学会細則第 33 条から 36 条にもとづき、学会賞、船舶海洋技術賞等を授与した。

- 1) 令和2年度定時総会において、表2-5 のとおり日本船舶海洋工学会賞（論文賞）を授与した。また副賞として日本造船工業会賞・日本海事協会賞を授与した。
- 2) 令和2年度定時総会において、表2-6 のとおり第44回船舶海洋技術賞が矢尾哲也君に授与された。
- 3) 令和2年度定時総会において、表2-7のとおり日本船舶海洋工学会奨励賞（乾賞）を授与した。
- 4) 令和2年度定時総会において、表2-8のとおり日本船舶海洋工学会賞（著書等）を授与した。
- 5) 令和2年度定時総会において、表2-9のとおり日本船舶海洋工学会社会貢献賞を授与した。
- 6) 商船高等専門学校等の卒業生の中から成績優秀な者に表2-10のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 7) 船舶海洋系大学および大学院（修士課程）の卒業生の中から成績優秀な者に表2-11のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 8) 工業高等学校の卒業生の中から成績優秀な者に表2-12のとおり、奨学褒賞を授与した。

【10】支部活動

1. 東部支部

(1) 若手研修・意見交換会

海事産業に関わる若手世代の親睦を深め、海事産業に関する情報共有や問題意識の啓発を図るため、横浜国立大学の満行泰河准教授を講師として、オープンデータ分析とビジネス変革を目指したアイデアソンをオンライン形式で実施した。

研修会は3時間×2日間で構成、1回目はEU-MRVデータの概要とデータ分析の方針について、第2回目は海事産業関連で手に入るデータを活用した新ビジネスの提案をテーマとした。

期日：令和3年2月19日、26日

開催方法：オンライン形式

参加人数：14名

(2) 海事クラスター合同オリエンテーション

海事産業への興味を持つ全ての大学生・大学院生を対象として、西部支部との共催により開催した。参加団体による個別説明会を行い、海事産業の魅力を周知することに努めた。

期日：令和2年12月19日、20日

場所：ウェブ会議システムにより開催

参加人数（事前登録者数）：70名、参加団体数：18団体

(3) 東部支部情報管理委員会

会員等に対する情報提供として、支部ホームページの管理、支部メールニュース（No. 58～61）の発行を行った。

表 2-5 論文賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞、日本海事協会賞 論文名：海底熱水鉱床の採鉱・揚鉱パイロット試験のための稼働性評価 受賞者：大坪和久（海技研）、渡邊充史（同）、石田圭（同） 荒木元輝（同）、長谷川賢太（同）、齊藤昌勝（同）、佐藤宏（同） 湯川和浩（同）、岩下遼（深田カハベジ）、川野誠矢（JOGMEC）</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞、日本海事協会賞 論文名：旋回運動する船の舵トルクに関する研究 — 模型試験による特性の把握と推定法の検討 — 受賞者：佐野将昭（広島大学）、山本拓人（常石造船） 安川宏紀（広島大学）</p>

表 2-6 船舶海洋技術賞

受賞者：矢尾 哲也（大阪大学・広島大学名誉教授）

表 2-7 奨励賞（乾賞）

<p>論文名：浮体構造物係留鎖における定量的摩擦量推定の実施と検証 受賞者：武内 崇晃（九州大学）</p>
<p>論文名：Experimental Study on Parametrically Excited Oscillation of a Spar-Buoy Under Mathieu Instability 受賞者：Peng Xu（東京海洋大学）</p>

表 2-8 著書・開発・発明賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 著書・調査：五島列島沖合に海没処分された潜水艦24艦の全貌 受賞者：浦 環（ラ・ブルンジェ深海工学会）</p>

表 2-9 社会貢献賞

<p>日本船舶海洋工学会社会貢献賞 題名：グリーンシップリサイクルの推進 受賞者：一般社団法人日本船主協会</p>

表 2-10 奨学褒賞（商船高等専門学校）

学校名	受賞者
弓削商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	坂本 和希 池田 和樹
大島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	山崎 日向 MUHAMMAD RUSYAI BIN ROSLAN
富山高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	平野 将史 紺谷 准
鳥羽商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	岡 宏樹 平賀 双歩
広島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	鈴木 雅人 河野 雅也

表 2-11 奨学褒賞 (大学, 大学院)

学校名, 学科名	受賞者
東京大学 工学部システム創成学科 大学院工学系研究科システム創成学専攻 大学院新領域創成科学研究科	渋谷 圭吾 岸 康太 三上 航平
横浜国立大学 理工学部機械・材料・海洋系学科 大学院工学府システム統合工学専攻	久保 宏美 石原 祐希
東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科 海洋工学部海洋電子機械工学科 海洋工学部流通情報工学科 海洋科学技術研究科海運システム工学専攻	太田 浩紀 栗原 礼子 横川 達也 伊藤 りりか
神戸大学 海事科学部グローバル輸送科学科 海事科学部海洋安全システム科学科 海事科学部マリンエンジニアリング学科 海事科学研究科	国友 明人 鍛冶 賢志 安井 鷹矢 吉井 拓也
大阪大学工学部 地球総合工学科船舶海洋工学科目 大学院工学研究科地球総合工学専攻	三浦 一樹 鈴木 寛太郎
大阪府立大学工学域機械系学類 海洋システム工学課程 大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻	加藤 拓也 芦田 峻
東海大学海洋学部 航海工学科海洋機械工学専攻 大学院海洋学研究科海洋学専攻	ムマドアフィフ ズディビン 齋藤 龍汰郎
広島大学工学部 第四類輸送機器環境工学プログラム 大学院工学研究科輸送・環境システム専攻	八谷 洋輔 野村 潤平
九州大学工学部地球環境工学科 船舶海洋システム工学コース 大学院工学府海洋システム工学専攻 総合理工学府大気海洋環境システム学専攻	松葉佐 哲仁 宮井 優太郎 森塚 哲仁
長崎総合科学大学 工学部工学科船舶工学コース 大学院工学研究科生産技術学専攻	村上 洋基 楳 蓮
海上保安大学校 本科第一群 本科第二群	石井 稜 川口 雅弘
海技大学校 海上技術コース (航海専修) 海上技術コース (機関)	岩切 真輝 加地 遊

表 2-12 奨学褒賞 (高等学校)

学校名	受賞者
山口県立下関工科高等学校	下枝 真広
高知県立須崎総合高等学校	井関 涼
長崎県立長崎工業高等学校	和田 悠航
愛媛県立今治工業高等学校	檜垣 瑤志

2. 関西支部

(1) 若手技術者研修会

委員数：藤久保昌彦会長ほか幹事 3 名，会員 6 名

造船所の若手工作技術者を対象に造船所・メーカー・大学施設の見学，工作技術への理解と応用力を深める自己研鑽及び啓発の場として，さらに所属組織の垣根を越えた交流を狙い，技術研修会を開催した。

第 1 回研修会

期日：令和 2 年 6 月 19 日

場所：ウェブ開催 出席者：11 名

第 2 回研修会

期日：令和 2 年 9 月 29 日

場所：今治造船丸亀事業本部・川崎重工業坂出工場

出席者：13 名

第 3 回研修会

期日：令和 2 年 10 月 23 日

場所：サノヤス造船水島製造所・三井 E&S 造船玉野艦船工場

出席者：12 名

第 4 回研修会

期日：令和 2 年 11 月 6 日

場所：JMU 津事業所 出席者：10 名

第 5 回研修会

期日：令和 3 年 3 月 15 日

場所：ウェブ開催 出席者：12 名

(2) 造船資料保存委員会

造船技術の発展途上で創り出され活用された資料ならびに用具類の収集・保存，および発展過程の調査を行った。

委員数：32 名

庶務幹事会（今年度新設）：ウェブ会議 3 回

委員会：ウェブ会議 2 回

デジタル造船資料館編集会議：ウェブ会議 1 回

(3) 関西シニア海事研究会

新型コロナウイルス感染症の影響により，総会・懇親会，教育支援グループ活動，シニア親睦 G 会は中止され，幹事会と海友フォーラムが実施された。

幹事会：4 回実施

海友フォーラム：「メール方式懇談会」として 2 回実施

(4) 関西支部表彰

・支部長賞 (2 件)

学会賞の対象とならない成果で，船舶及び海洋工学，その他，海事一般への継続的な貢献が期待される個人または団体を奨励するために授与した。関西支部会員より自薦または他薦された技術者，教員，学生および団体を対象とした。

関西船舶海洋流体力学研究会 (KFR)：50 年に亘り，船舶及び海洋構造物の流体力学に関する学術的知識の深化及び情報交換を目的に，セミナー・講演会等を企画，実施してきた継続的な調査研究活動

大阪大学船舶海洋試験水槽：50 年に亘り，船舶及び海洋構造物の実験を通して，船舶海洋工学分野の研究の発展および人材育成に大きく貢献してきた継続的な教育研究活動

・支部長賞(奨励) (2 件)

青木 佑介 (大阪大学)，園田 悟大 (大阪大学)

・支部活動貢献賞 (1 件)

天野 希海，大野 智暉，瀬川 教文 (大阪大学)

(5) 海事産業説明会

大学生・大学院生を対象に，海事産業について紹介と啓発をするための説明会を開催した。運営は，関西地区の学生研究グループである KFR-Jr. と KSSG-Jr. の学生幹事が主体となり，特

別講演,参加団体による企業別説明会と座談会を企画実施した。

期日：令和2年11月28日

場所：ウェブ開催

テーマ：海事産業のイマとミライ

講師：安藤 英幸 氏(MTI) 谷川 文章 氏(浅川造船)

参加者：約130名(うち学生約80名)

参加団体：26社

(6) 見学・講演会

新型コロナウイルスの感染拡大のため、開催を中止

(7) 学生・若手会員募集

学生会員勧誘のための学会紹介パンフレットを製作し、学生会員の拡大を図った。

3. 西部支部

(1) 西部支部若手技術者交流会(ワークショップ)

期日：第1回 令和2年9月26日

第2回 令和2年10月10日

第3回 令和2年10月24日

場所：ウェブ会議

参加人数：25名(若手17名,講師1名,アドバイザー3名,

オブザーバー1名,会議サポート1名,世話人2名)

所属組織の垣根を越えた若手技術者間の交流や情報交換を行い、仕事や研究へのモチベーションの醸成を図り、わが国の船舶・海洋工学分野の将来課題について認識を深め、課題解決のマインド作りをするワークショップを開催した。業界理解を深めるための専門家による講義、フレームワークを用いた問題分析の手法等に取り組んだ。

(2) 広報編集委員会

回	期日	場所	出席者
第36回	02.05.18	ウェブ会議	15名
第37回	02.06.09	ウェブ会議	16名
第38回	02.11.24	ウェブ会議	15名
第39回	03.02.04	ウェブ会議	16名

このほか随時、電子メールにより学会誌の企画・編集に関わる審議を行った。

(3) 電子情報委員会

電子メールにより関連課題の審議を行った。

(4) 広報活動など

メールマガジン第89号～第94号を配信した。

III 事務報告

【1】会合

1. 定時総会

令和2年度(第125期)日本船舶海洋工学会定時総会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により書面での議決権行使によることとし、代議員総数81名の内63名の議決権行使によって、令和元年度(第124期)事業報告(報告事項)、収支決算報告(決議事項)等が審議され可決した。

期日：令和2年6月5日(議決権行使日)

場所：日本船舶海洋工学会(東京都港区)

議事：

- (1) 令和元年度(第124期)事業報告,決算報告
- (2) 令和2年度(第125期)事業計画,収支予算

2. 理事会

令和2年度(第125期)第1回定例理事会

日時：令和2年5月8日

場所：日本船舶海洋工学会会議室およびウェブ会議

出席：理事14名,監事3名,事務局1名

主要議事：

- (1) 令和元年度事業報告・収支決算報告に関する審議
- (2) 令和2年度定時総会・表彰式に関する審議
- (3) World NAOE Forum 2020 中止に関する審議

令和2年度(第125期)第2回定例理事会

日時：令和2年7月17日

場所：ビジョンセンター浜松町会議室およびウェブ会議

出席：理事13名,監事3名,事務局1名

主要議事：

- (1) 特別検討委員会の設置に関する審議
- (2) 秋季講演会の開催方法に関する審議
- (3) 学会誌の電子化工程見直しに関する審議

令和2年度(第125期)第3回定例理事会

日時：令和2年9月18日

場所：ビジョンセンター浜松町会議室およびウェブ会議

出席：理事14名,監事3名,事務局1名

主要議事：

- (1) 学会論文審査部門の新設に関する審議
- (2) 代議員選挙の実施に関する審議
- (3) 秋季講演会の実施に関する審議

令和2年度(第125期)第4回定例理事会

日時：令和2年11月27日

場所：ビジョンセンター浜松町会議室およびウェブ会議

出席：理事14名,監事3名,事務局1名

主要議事：

- (1) 内規の改定に関する審議
- (2) 中間決算および決算見込に関する審議
- (3) 令和3年度予算ガイドラインに関する審議

令和2年度(第125期)第5回定例理事会

日時：令和3年1月29日

場所：ビジョンセンター浜松町会議室およびウェブ会議

出席：理事13名,監事3名,事務局1名

主要議事：

- (1) 令和3年度事業計画・予算案に関する審議
- (2) 論文集の審査部門新設に関する審議
- (3) 内規の改定に関する審議

令和2年度(第125期)第6回定例理事会

日時：令和3年3月19日

場所：ビジョンセンター浜松町会議室およびウェブ会議

出席：理事14名,監事3名,事務局1名

主要議事：

- ・令和3年度(第126期)事業計画・予算に関する審議
- ・名誉会員・功労会員の推薦
- ・学会賞の授賞に関する審議

【2】会員の異動

1. 会員数推移

令和3年3月31日現在,会員総数は個人会員3,991名,賛助会員136団体,計4,127となった。(表3-1)

2. 名誉会員、功労会員の推薦

令和2年6月5日定時総会にて下記のとおり1名が名誉会員に、2名が功労会員に推薦された。

名誉会員： 柏木 正

功労会員： 鈴木 英之 松本 光一郎

3. 終身会員の推薦

理事会において下記42名の終身会員への推薦が承認された。

荒川 忠一 石井 哲郎 石井 昭良 石松 武文
 伊藤 久 浦口 和晴 岡野 賢二 梶田 剛
 川崎 豊彦 川島 敏彦 菅 利彦 木村 嘉克
 佐久間 優 修理 英幸 杉野 侑二 鈴木 博之
 鳥海 憲彦 長畑 司 中山 一夫 西川 榮一
 西村 真司 二宮 本報 野澤 徹 信原 真人
 野村 雅宣 旗手 光清 林田 雅行 伴 辰也
 平尾 貴志 平原 隆美 二見 吉雄 堀井 久寿雄
 本間 亮 前田 俊夫 松井 亨介 松尾 龍介
 水野 博介 道本 順一 村上 光一 山本 和正
 湯浅 和昭 吉田 公一

【3】委員の委嘱

下記のとおり新たに委員を委嘱した。

(1) 論文審査委員会

正信聡太郎, 北澤大輔, 松倉洋史, 石橋 篤, 藤本修平, 松尾宏平, 田中健太郎, 日野孝則, 増田聖始, 田中 進, 川北千春, 飯島一博, 川畑友弥, 黒岩隆夫, 長谷川和彦, 南 清和, 山口 悟

(2) 英文論文編集委員会

Claudio Testa, Gabriele Bulian, Karl Slater

(3) 学会誌編集委員会

柳本史教, 辰巳 晃, 三宅達也, 田中智行, 毎田 進, 五十嵐勲英, 林原仁志, 荒牧梨花子, 柿沼哲也

(4) 研究企画委員会

居駒知樹, 胡 長洪, 浅田典彦

(5) 研究企画委員会 (分野研究企画部会)

飯島一博, 北澤大輔, 中谷直樹, 胡 長洪, 岡畑 豪, 新井 洋, 西 洋一郎, 国貞泰介

(6) 海洋教育推進委員会

町田健三, 木村 元

(7) 研究委員会

P-59 破壊駆動力評価における溶接残留応力影響の考慮法に関するFS 委員会：川畑友弥, 後藤浩二, 松本和幸, 山下洋一, 山内 曉彦, 田川哲哉, 萱森陽一, 山口 洸, 武村理弘, 杉村忠士, 西本 哲

P-60 造船業務のA I化の検討：

木村 元, 木根森弘治, 松尾 稔, 青山 和浩, 稗方和夫, 川村恭己, 濱田邦裕, 竹澤晃弘, 平田法隆, 大和裕幸, 松尾宏平, 竹澤正仁, 佐々木吉通, 富澤 茂, 安藤英幸, 尾崎雅, 土井憲治, 岡本直樹, 広崎 貴, 益井崇好, 青木一紀, 谷川雅彦, 砂川 祐一, 中尾洋一, 平山隆男, 八起雄太郎, 西田侑樹, 平木常正, 三森裕司, 酒井史彦, 浅田典彦, 佐脇裕太, 石原 唯, 国貞泰介, 金高泰人, 小山田聡史, 長野元睦, 大下達哉, 吉富祐介, 伊藤圭司, 関口 晋, 藤原浩二, 竹藪直紀, 春田常典, 木村 亨, 中谷榮希, 末次英明, 和田義幸, 中山憲治, 渡邊真吾

S-21 ゼロエミッション船実現に向けた船舶流体力学を主体とした技術検討委員：川北千春, 白石耕一郎, 川島英幹, 新郷将司, 寺田大輔, 上野道雄, 毛利隆之, 木村校優, 松田詩史, 笹 健児, 折原秀夫, 日野 孝則, 大橋訓英, 一ノ瀬康雄, 金井 健, 佐藤 圭, 大飼泰彦, 蓮池伸宏, 平田宏一, 金丸 崇, 日夏宗彦, 平川 崇

表3-1 会員数推移

種 別	前期末 (02年3月 31日)	当期末 (03年3月 31日)	増員	減員	増減
正会員	3,992	3,841	35	186	-151
(内名誉会員)	(36)	(35)	1	2	-1
(内功労会員)	(68)	(64)	2	6	-4
(内終身会員)	(878)	(879)	42	41	1
(内シニア会員)	(68)	(58)	12	22	-10
(内在外会員)	(77)	(59)	1	19	-18
学生会員	222	149	57	130	-73
賛助会員 特級	17	17	0	0	0
1級	9	9	0	0	0
2級	9	8	0	1	-1
3級	105	102	1	4	-3
個人	2	1	0	1	-1
合 計	4,356	4,127	93	322	-229

牧 敦生

S-22 浮体式洋上風力発電の商用利用に向けた研究委員会：

鈴木英之, 二瓶泰範, 中條俊樹, 羽田 絢, 田中大樹, 小濱耕二

S-23 海洋プラスチック汚染研究委員会：

西 佳樹, 神田雅光, 吉本治樹, 多部田茂, 平林紳一郎, 林 昌奎, 村井基彦, 大塚耕司, 中谷直樹, 今井康貴

S-24 海洋構造物のデジタルツイン技術に関するストラテジー委

員会：居駒知樹, 飯島一博, 村井基彦, 安澤幸隆, 柳原大輔, 田中義和, 中條俊樹, 新里英幸

【4】代議員選挙

代議員選挙管理委員会(委員長：柏木正)を設置し, 任期満了に伴う日本船舶海洋工学会代議員選挙の結果, 第126~127期(令和3~4年)の代議員は下記のとおり選出され, 令和2年12月15日公示された。

青山 和浩	有馬 俊朗	有馬 正和	安藤 英幸
石川 暁	石黒 剛	石倉 歩	伊藤 博子
伊東 章雄	岩下 英嗣	上田 直樹	植村 洋毅
宇都宮 智昭	梅田 直哉	大沢 直樹	大塚 耕司
大坪 新一郎	大庭 亮	岡 正義	岡崎 全伯
岡田 哲男	越智 宏	影本 浩	片山 徹
勝井 辰博	加藤 恒司	川越 美一	川村 恭己
北澤 大輔	北村 徹	北村 充	木村 校優
河野 一郎	後藤 浩二	佐藤 徹	佐藤 隆一
佐藤 宏一	篠田 岳思	庄司 るり	新宅 英司
菅 勇人	杉村 忠士	鈴木 克幸	鈴木 英之
高木 健	高橋 裕樹	瀧本 努	武田 誠
田中 寿夫	田中 進	辻本 勝	戸田 保幸
中谷 直樹	西尾 茂	濱田 邦裕	稗方 和夫
東 英一	平田 純一	平田 信行	平山 明仁
藤久保 昌彦	藤原 敏文	古川 芳孝	正信 聡太郎
麻 寧緒	水口 和久	南 真紀子	三橋 孝司
村井 基彦	村岸 治	本井 達哉	安川 宏紀
柳原 大輔	山内 豊	山口 悟	山本 哲也
吉元 博文	早稲田 卓爾		

【5】寄付金等

当会の諸事業に対する助成として以下の寄付金を受領した。

(1) 寄付金

当会の諸事業に対する寄付金

日本造船工業会より 175万円
個人（計5名）より 5万円

【6】関連団体との協力

- 1) 日本学術会議
日本学術会議が主催するシンポジウムを1件共催した。
- 2) 日本工学会
CPD協議会の運用等に関連して日本工学会の事業に協力した。また、事務研究委員会の活動に参画した。
- 3) 日本造船工業会
産業界と学会との連携強化を図る必要があるとの考えから、日本造船工業会と学会との第2回目となる意見交換会を令和3年3月16日に開催した。造船技術者社会人教育の事業では日本造船工業会と連携を図った。
- 4) 海事三学会
日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会との連携を目的として会長懇談会等を2回行った。また、合同表彰式、技術者支援事業等で連携を図った。
- 5) 機械系関連学協会
機械系学協会会長懇談会等を通じ、関連行事の連携を図った。

【7】規則

- 定例理事会において下記内規の改定を決議した。
- ・ 支部に関する規則
 - ・ 職員の定年制に関する規定
 - ・ 職員退職手当金支給規定

【8】行政庁への提出

- 1) 令和2年6月29日付で内閣府に事業報告、収支決算書を含む下記を提出した。
 - ・ 令和元年度（第124期）事業報告等に係わる提出書類
- 2) 令和2年11月20日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・ 役員の死亡による変更登記届
- 3) 令和3年3月30日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・ 令和3年度（第126期）事業計画
 - ・ 令和3年度（第126期）収支予算書
 - ・ 令和3年度資金調達及び設備投資の見込に関する書類

【9】支部会合

1. 東部支部

定時総会

期日：令和2年5月29日

場所：書面審議にて開催

運営委員会

委員数：宇都正太郎支部長ほか18名

第1回（令和2年4月15日）

場所：メール審議にて開催

主要議事：

- (1) 東部支部定時総会審議事項の確認
 - (2) 令和2年度 東部支部行事の企画
- 第2回（令和2年7月9日）

場所：学会会議室およびウェブ会議室

主要議事：

- (1) 令和2年度東部支部定時総会の報告
 - (2) 令和3-4年度 代議員選挙の実施
 - (3) 令和2年度東部支部行事の企画・運営
 - (4) 令和2年春季講演会実行委員会（第5回、第6回）報告
- 第3回（令和2年9月11日）

場所：学会会議室およびウェブ会議室

主要議事：

- (1) 令和3-4年度 代議員選挙実施の手順
- (2) 代議員選挙管理委員の推薦について
- (3) 東部支部行事の実施案等

第4回（令和2年11月20日）

場所：学会会議室およびウェブ会議室

主要議事：

- (1) 令和3-4年度 代議員候補者の推薦結果
 - (2) 次期支部長、支部推薦理事候補者の選出方法
 - (3) 令和3年度事業計画・予算案の作成日程
 - (4) 令和2年度中間決算
 - (5) 会費未納者（会員資格喪失対象者）への対応
- 第5回（令和3年1月22日）

場所：学会会議室およびウェブ会議室

主要議事：

- (1) 次期支部長、支部推薦理事候補者の選挙について
- (2) 令和3年度東部支部事業計画案・予算案（1次案）
- (3) 令和2年度会員資格喪失対象者（会費未納者）
- (4) 令和2年度終身会員の推薦

第6回（令和3年3月12日）

場所：学会会議室およびウェブ会議室

主要議事：

- (1) 次期支部長、支部推薦理事候補者選挙の結果
- (2) 令和2年度東部支部事業報告・決算報告の作成
- (3) 令和3年度東部支部事業計画案および予算案（2次案）
- (4) 令和3-4年度 運営委員の委嘱
- (5) 令和3年度東部支部定時総会の開催日程等

2. 関西支部

定時総会

期日：令和2年5月18日

場所：ウェブ開催

出席者：49名

商議委員会

委員数：有馬副支部長ほか47名

期日：令和3年1月22日

場所：ウェブ開催 出席者：40名

主要議事：

- (1) 令和2年度事業進捗状況
- (2) 令和3年度事業計画案・予算案
- (3) 支部長賞候補推薦のお願い

運営委員会

委員数：竹田太樹支部長ほか14名

第1回（令和2年4月17日）

場所：ウェブ開催 出席者：33名

主要議事：

- (1) 令和2年度支部定時総会
 - (2) 支部長賞授賞審査委員会
- 第2回（令和2年5月18日）

場所：ウェブ開催 出席者：33名

主要議事：

- (1) 役員・委員委嘱・会員異動
- (2) 関西支部定時総会議事進行案
- (3) 令和2年度若手技術者研修会

第3回（令和2年7月3日）

場所：ウェブ開催 出席者：35名

主要議事：

- (1) 選挙及び運営委員選出に関する手順書
- (2) 学生会費の免除について

第4回(令和2年9月4日)
場所:ウェブ開催 出席者:30名
主要議事:

- (1) 学生研究発表会 2020
- (2) 海事産業説明会 2020

第5回(令和2年11月13日)
場所:ウェブ開催 出席者:33名
主要議事:

- (1) 令和2年度中間報告
- (2) 令和3年度事業計画素案・予算素案
- (3) 竹田支部長名誉会員推薦について
- (4) 令和3/4年度名誉会員推薦について
- (5) 新年特別講演会について

第6回(令和2年12月11日)
場所:ウェブ開催 出席者:25名
主要議事:

- (1) 新年特別講演会
- (2) 令和2年度中間報告
- (3) 研究会設置または支援に関する内規

第7回(令和3年1月22日)
場所:ウェブ開催 出席者:33名
主要議事:

- (1) 次期支部長・監事および支部推薦理事候補者について
- (2) 支部長賞候補推薦のお願い
- (3) 関西支部定時総会

第8回(令和3年3月5日)
場所:ウェブ開催 出席者:30名
主要議事:

- (1) 支部長賞推薦状況
- (2) 令和3-4年度商議員推薦者名簿について
- (3) 令和3年度若手技術者研修会
- (4) 学生会員募集パンフレット
- (5) 支部活動貢献賞について

会務委員会

委員数:勝井幹事ほか17名
支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。

第1回(令和2年4月17日)
第2回(令和2年5月18日)
第3回(令和2年7月3日)
第4回(令和2年9月4日)
第5回(令和2年11月13日)
第6回(令和2年12月11日)
第7回(令和3年1月22日)
第8回(令和3年3月5日)

3. 西部支部

定時総会

期日:令和2年5月15日
場所:ウェブ会議
議事:

- (1) 支部役員の承認
- (2) 第15期(令和元年度)事業報告および決算報告
- (3) 第16期(令和2年度)事業計画および予算審議

西部支部運営委員会

委員数:橋本支部長ほか28名
第1回(令和2年5月15日)
場所:ウェブ会議
主要議事:

- (1) 令和2年度事業計画

第2回(令和2年8月6日)
場所:ウェブ会議
主要議事:

- (1) 令和2年度事業計画の詳細について
- (2) 令和3年度企画について

第3回(令和2年10月23日)
場所:ウェブ会議
主要議事:

- (1) 令和2年度事業報告(含状況報告・費用報告)
- (2) 令和3年度事業計画案

第4回(令和3年1月13日)
場所:ウェブ会議
主要議事:

- (1) 各事業の開催報告
- (2) 令和3年度事業計画案

第5回(令和3年3月9日)
場所:ウェブ会議
主要議事:

- (1) 令和2年度事業報告・決算報告
- (2) 令和3年度事業計画・予算案